

平成24年11月14日
京阪電気鉄道株式会社

～駅スタッフと乗務員の制服デザインを統一～

12月1日(土)より京阪線・大津線の駅スタッフ、乗務員の制服を刷新します

○京阪ブランドの向上を目指して制服を刷新し、今後も安全・安心を基本に、さらなるサービスの向上を図ってまいります

京阪電気鉄道株式会社(本社:大阪府中央区、社長:加藤好文)では、12月1日(土)より、京阪線、大津線の駅スタッフおよび乗務員の制服を、新しい制服に刷新いたします。

現在着用している京阪線の乗務員および大津線の制服(グリーン系のジャケット、グレーのパンツ)は平成2年に開業80周年記念事業の一環として導入しました。また、京阪線の駅スタッフの制服(紺色ベースのジャケットとパンツ)は京橋駅のリニューアル時を皮切りに、平成15年4月に京阪線全駅へ導入いたしました。新しい制服は、現在、京阪線の駅スタッフが着用している紺色をベースにした制服を、①独自性、②機能性、および③美しさの観点から刷新したうえで、京阪線・大津線のすべての駅スタッフ・乗務員が着用し、あわせて制服の統一を図ります。

当社は「安全・安心」を基本に、お客さまと「身近」に接し、「誠実」にお応えしてきた100年を超える歴史のなかで、京阪ブランドの向上を目指しており、「私たちは、“お客さまにやさしい鉄道”をつくりあげていきます。」をスローガンに、今般、制服を刷新し、今後もさらなるサービスの向上を図ってまいります。



(別紙)

○新しい制服の概要

1. コンセプト

これまで京阪ブランドの構築を目的に、一貫したコンセプトとトータルデザインの手法によって、駅サインデザインや新造車両、既存車両のカラーリニューアルを進めてきました。

駅スタッフおよび乗務員はお客さまとの接点が多いこともあり、制服は京阪ブランドを構成する大切な要素になります。新しく導入する制服は、「京阪らしさ」を継承しながらも、「京阪ブランド」を形成するデザインやカラーとの統一感を生み、新しい「京阪ブランドの制服」として着用していくものです。

2. 特 徴

100年を超えるこれまでの当社の歴史を鑑み、帽子にある社章を継承する一方、今後の100年を意識して、京阪ブランドを象徴する「京阪グループ シンボルマーク」を、名札と右肩のワッペンにデザインするなどの『独自性』を持たせました。



▲右肩のワッペンデザイン

また、袖やポケットのボタンをなくしたり、シングルジャケットによるボタンの減少により、引っかかりを防ぎ、動きやすいデザインにする一方、女性(駅スタッフ)もパンツスタイルにすることで、よりアクティブな動きが可能になり、『機能性』を向上させました。

さらに、制服のベースとなる紺色は出入口にある駅名サインなどを連想させ、駅に入ってから「統一感」に寄与することを想定しつつ、デザインとして無駄なゆとりを排除し、男性は堂々としたライン、女性は優美なデザインで性別の体型を活かしたスタイルで『美しさ』を追求しました。

3. 着用開始日

平成24年12月1日(土) 始発より

4. 着用対象者

京阪線・大津線の駅スタッフ・乗務員

以 上